

6 目標の達成状況の評価

6.1 推進体制

- 本計画の進行管理は、阿賀野市地域公共交通協議会が主体となり行う。
- 阿賀野市地域公共交通協議会は市民、行政、交通事業者が一体となって構成される。

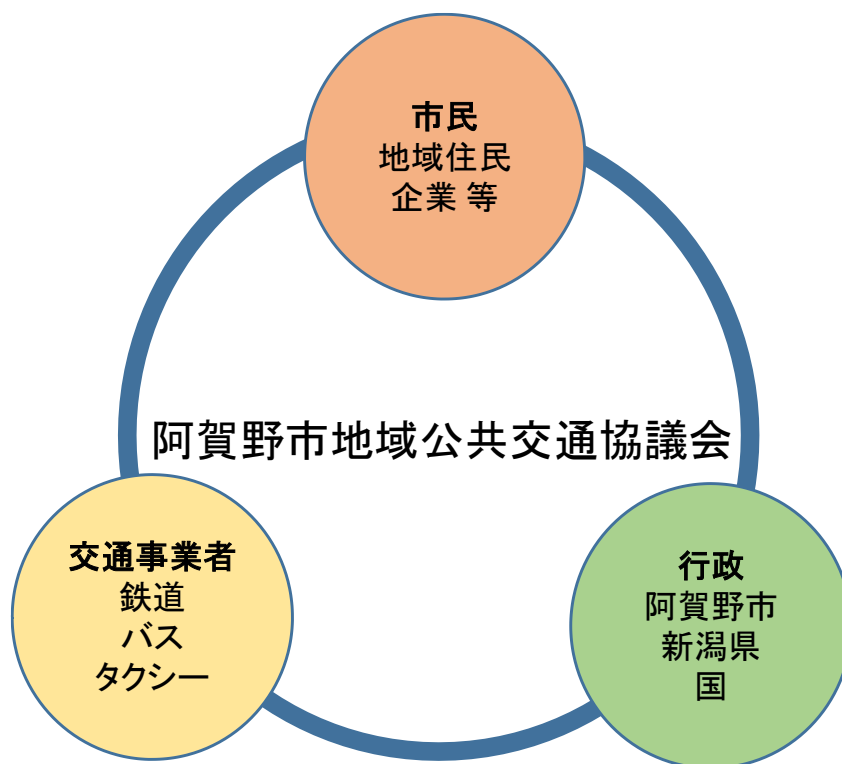


図 推進体制のイメージ

6.2 計画の進行管理

- 本計画の進行には Plan(実施計画の立案)、Do(計画の実行)、Check(計画の評価、検証)、Action(計画の見直し、改善)の PDCA サイクルを用い、公共交通網の改善、向上に向けて取り組む。
- PDCA の Check 部分を実行するために、毎年度計画の施策の達成状況を評価するほか、計画の最終年度において計画全体の達成状況を検証する。

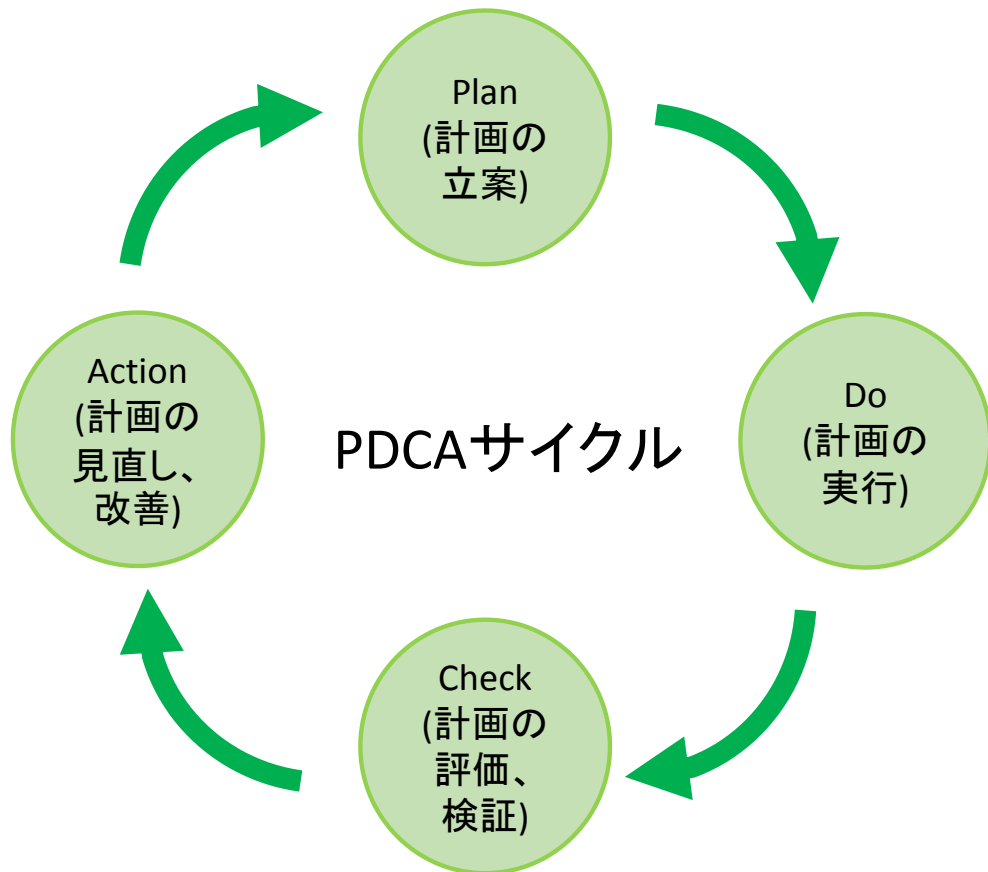


図 PDCA サイクルのイメージ

6.3 評価指標と目標値

6.3.1 阿賀野市総合計画で用いている指標

○計画で定めた目標の達成状況を検証するために、阿賀野市総合計画に示される指標と、本計画における指標を用いる。本計画における指標は、次項でその内容を示す。

表 評価指標と目標値

	評価指標	現況値 (H28)	目標値 (H32)	関連する目標
総合計画との整合を図る指標	公共交通機関の満足度※ ¹	57.0%(H27)	65%	目標 1:高齢者や学生など誰もが利用しやすい公共交通の構築 目標 2:市内外の交流促進に結びつく交通体系の整備 目標 3:市民と行政の協働により公共交通を維持
	市内移動の公共交通機関の満足度※ ¹	67.3%(H27)	70%	目標 1:高齢者や学生など誰もが利用しやすい公共交通の構築 目標 3:市民と行政の協働により公共交通を維持
	市外移動の公共交通機関の満足度※ ¹	46.6%(H27)	60%	目標 1:高齢者や学生など誰もが利用しやすい公共交通の構築 目標 2:市内外の交流促進に結びつく交通体系の整備 目標 3:市民と行政の協働により公共交通を維持
	観光客入込客数	1,181,568人	1,400,000人	目標 2:市内外の交流促進に結びつく交通体系の整備
本計画における評価指標と目標値	市民1人あたりの市営バス年間利用回数	2.65回/年	2.74回/年	目標 1:高齢者や学生など誰もが利用しやすい公共交通の構築 目標 3:市民と行政の協働により公共交通を維持
	市民1人あたりの水原駅年間利用回数	6.9回/年	7.1回/年	目標 1:高齢者や学生など誰もが利用しやすい公共交通の構築 目標 2:市内外の交流促進に結びつく交通体系の整備 目標 3:市民と行政の協働により公共交通を維持
	住民の公共交通利用率	53%	68%	目標 1:高齢者や学生など誰もが利用しやすい公共交通の構築
	公共交通の理解を深めるイベントの開催件数	1件/年	2件以上/年	目標 3:市民と行政の協働により公共交通を維持

※¹ 公共交通機関の満足度とは、まちづくりアンケートで「市内の移動に関する公共交通(バス停)、新潟市や新発田市等の市外への移動に関する公共交通(電車、バス等)について満足していますか。」との問いに対し、「満足」「どちらかといえば満足」「ふつう」と回答した市民の割合である。

6.3.2 本計画における評価指標と目標値

指標 1：市民 1 人あたりの市営バス年間利用回数	
指標の設定・算定方法	<ul style="list-style-type: none"> 市営バス利用実績に基づき、以下の式により算定する。 市民 1 人あたりの市営バス利用回数/年 $= \text{市営バス利用者数/年} \div \text{阿賀野市総人口}$
現況値と目標値	【現況値】2.65 回/年→【目標値(平成 32 年度)】2.74 回/年
目標値設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 人口が減少するなかで、現況の市営バス利用者数を維持していくためには、市民 1 人あたりの市営バス利用回数を増加させる必要がある。 平成 32 年度の人口(推計値)を踏まえ、現況の市営バス利用者数を維持する「市民 1 人あたりの市営バス年間利用回数」を平成 32 年度の目標値に設定する。
関連する目標	目標 1: 高齢者や学生など誰もが利用しやすい公共交通の構築 目標 3: 市民と行政の協働により公共交通を維持

指標 2：市民 1 人あたりの水原駅年間利用回数	
指標の設定・算定方法	<ul style="list-style-type: none"> 水原駅利用実績に基づき、以下の式により算定する。 市民 1 人あたりの水原駅利用回数/年 $= \text{水原駅利用者数/年} \div \text{阿賀野市総人口}$
現況値と目標値	【現況値】6.9 回/年→【目標値(平成 32 年度)】7.1 回/年
目標値設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 人口が減少するなかで、現況の水原駅の利用者数を維持していくためには、市民 1 人あたりの水原駅利用回数を増加させる必要がある。 平成 32 年度の人口(推計値)を踏まえ、現況の水原駅利用者数を維持する「市民 1 人あたりの水原駅年間利用回数」を平成 32 年度の目標値に設定する。
関連する目標	目標 1: 高齢者や学生など誰もが利用しやすい公共交通の構築 目標 2: 市内外の交流促進に結びつく交通体系の整備 目標 3: 市民と行政の協働により公共交通を維持

指標 3：住民の公共交通利用率	
指標の設定・算定方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画の住民アンケートに基づき、以下の条件に基づき設定する。 ・市営バス、民間路線バス、もしくは鉄道のいずれかで「週に1回以上利用している」、「月に1回以上利用している」、「年に1回以上利用している」と回答した住民の割合を公共交通利用率とする。
現況値と目標値	<p>【現況値】53%→【目標値(平成32年度)】68%</p>
目標値設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・阿賀野市の公共交通の利用割合が、市内の小学校区別で最大値の地区の値（安野小学校区：68%）を目指し、目標値を設定する。
関連する目標	<p>目標1:高齢者や学生など誰もが利用しやすい公共交通の構築</p>

指標 4：公共交通の理解を深めるイベントの開催件数	
指標の設定・算定方法	<ul style="list-style-type: none"> ・現在実施されている、阿賀野市における公共交通に関するイベント件数(各種イベントへの参加)を指標として設定する
現況値と目標値	<p>【現況値】0～1件→【目標値(平成32年度)】1～2件</p>
目標値設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・阿賀野市の公共交通のイベント件数が現状より高くなることを目指し、目標値を設定する。
関連する目標	<p>目標3:市民と行政の協働により公共交通を維持</p>